

クロファラビン・エトポシド・シクロホスファミド併用療法における副作用調査

○赤松 規子、永井 浩章、蟬川 由美、小林 知世、中山 淳司、靱井 佳奈、
愛甲 佳未、坂本 有里恵、三輪 祐太郎、北村 晃子、藤永 仁美、上田 里恵、
福井 由美子、加古 学

兵庫県立こども病院 薬剤部

【目的】クロファラビンはヌクレオシドアナログ代謝拮抗剤に分類される第2世代のプリン拮抗剤であり、再発または難治性の急性リンパ性白血病で使用される。本邦では約100症例に使用されており、単独での使用に加えエトポシド・シクロホスファミドとの併用療法（以下CLO併用療法）の報告もある。今回当院にて実施したCLO併用療法の副作用調査を実施したので報告する。

【方法】平成27年2月からCLO併用療法が行われた2症例について、診療録等から副作用症状について主に検査値や経過を抽出し、後方視的に調査した。

【結果】患者はともに10代の女性で、急性リンパ性白血病の難治症例であった。
1例目では体熱感、頭痛、全身倦怠感、掻痒感が発生した。Day 7にG4の好中球減少に至りDay 11に発熱性好中球減少症（以下FN）も出現したがガイドラインに準じた抗生剤投与にて回復した。2例目では多量の発汗、全身倦怠感、嘔気とDay 7でG4の好中球減少が出現したがFNの発現はなく経過した。両者とも投与開始後約3週間で骨髄回復傾向となり退院した。2症例ともに腎機能・肝機能障害や嘔吐の出現はなかった。

【考察】今回の症例では添付文書上に記載されている副作用が出現したが、治療を中止するような症状はなく、安全に治療を実施することができた。エトポシド、シクロホスファミドの2剤併用ではあまり経験しなかった頭痛、体熱感、全身倦怠感などの自覚症状が出現したこと、発熱を伴わない体熱感の副作用が2例ともに出現したことは特徴的であった。頭痛、発汗、体熱感等はクロファラビンによる全身性炎症反応症候群に関連する症状である可能性が強いと思われる。今後同様の治療が行われる場合には薬剤管理指導等で薬剤師の立場から患者説明や状態把握を行っていききたい。